

〔編集後記〕

2022 年末に ChatGPT（質問や依頼をすれば人工知能によって回答や対応をしてくれる対話型サービスとでもいえばよいでしょうか）が公開されました。テキスト入力ボックスに質問文や依頼文を入れれば、文書での回答のみならず、エクセル関数、プログラミングコードまで示してくれます。ある作家風にこんなテーマのエッセーをと頼めばそれなりの作品？を作ってくれます。もちろん、あるテーマを与えれば論文作成に使える文章も書いてくれます。このサービスは開発費の回収後に無料になる方針とのことですので、個人情報や吸い上げて広告料でマネタイズする現行の単純な検索システムは過去のものとなるかもしれません。しかし、現時点では ChatGPT には内容の真偽など、多くの問題が残っています。レポートや論文が簡単に準備できてしまうなど教育上の懸念もあります。試しに日本語サイトで自分の専門分野の疾患について尋ねてみました。回答内容には間違った記述が含まれていて、現時点では専門外の方（とくに患者さん）にとっては問題になりそうな印象を持ちました。まだ学習量が足りない可能性がありますので将来に期待します。ただ、これだけ医療者から発信している情報が多い中で、現時点で AI が食べている情報の質に問題がある（重要な記述が漏れている）可能性も考えました。日本語で専門家が提供している情報を AI が十分に見つけてくれていないという懸念です。たとえば一部のガイドラインが有料書籍のみで WEB 上で参照できないなどの問題も絡んでいるかもしれません。情報を提供する側も ChatGPT などの AI に正しい情報をきちんと見つけてもらう工夫が必要かもしれません。もちろん、AI によるサービスが進化するためには新規にオリジナル

な情報が追加され続けなければなりません。独創的なアイデアと正しいデータがさらに大きな価値を生む時代が来るのでしょうか。

さて、本号にはまず本年度で退官される教授のうち、腫瘍内科学講座の加藤淳二教授とリハビリテーション医学講座の石合純夫教授の最終講義録が掲載されています。加藤淳二教授は肝硬変と大腸癌に対する細胞標的療法について解説されました。前者は siRNA を用いた治療薬で FDA から優先審査指定を受けており、後者のテーマを含めて今後の成果を次世代に託したいと述べておられます。石合純夫教授は初代教授として人材や施設を含めた体制を構築し、ベストセラーとなった教科書の執筆を含め、リハビリテーションの認知度向上に尽力されました。長年のご趣味であるすばらしい鉄道写真も掲載していただきました。仕事も趣味も一生懸命に、というメッセージを残されました。また、原著論文 1、症例報告 1、研究論文の紹介 7 を投稿いただきました。普段はどうしても自分の研究分野と関係のある論文を中心に読むことが多いと思いますが、一見自分の興味からは遠く離れているテーマにも関わらず、ふと目にした雑誌や書籍に大きな発見や研究のヒントや長い間の疑問に対する答えを見つけることがあります。頭の隅に興味の破片がないと結びつかない可能性はありますが、偶然の出会いは大切であり、喜びでもあります。本号には素晴らしい記事や論文が掲載されています。是非、隅から隅まで目を通していただくようお願いいたします。

（編集委員 宇原 久）